

トチノキ

名称 和名：トチノキ
別名：トチ
アイヌ語名：トチニ tochi-ni
漢字表記：枹の木、橡
英名：Japanese horse chestnut

学名 *Aesculus turbinata* Blume

分類 トチノキ科トチノキ属

分布 北海道（西南部）、本州、四国、九州



庭木（径1m級，当麻町）

生態・形態 日本固有種（トチノキ属は北半球の温帯地域に 24 種）。山の谷間など肥沃な土地を好む落葉性の高木。

高さ 30m 太さ 2m に達する。樹皮は灰色～緑灰褐色で、不規則な割れ目が入る。枝は太く、広い円形の樹冠をつくる。冬芽は対生し、樹脂で粘る。頂芽は長卵形で長さ 10～30mm と大きく、側芽は卵形でほとんど発達しない。葉は掌状複葉（小葉数は 5 または 7）で、長さ 10～20cm の葉柄がつく。小葉は基部がくさび形の倒卵状楕円形で先がとがる。中央（先端）部の小葉が大きく、大型のもので長さ 40cm 幅 15cm になる。花は枝先に直立する長さ 15～25cm の円錐花序に多数つく。白色で基部は淡紅色を帯びる。雄花（めしべが無いか退化して小さいもの）と両性花がある。果実は球形で径約 4cm。果皮が厚く、熟すと 3 裂する。内部の種子は通常 1 個で球形。赤褐色で光沢がある。



樹皮（径30cm級）



樹皮（径1m級）



葉



花



果実



種子

木材の性質 散孔材。心材と辺材の色の違いはほとんど無く、帯紅白色～淡黄褐色。年輪ははっきりせず、やさしく柔らかい印象を与える。材はやや軽く軟らかいので加工がしやすい。緻密な肌目で仕上がりがよく、削った材面には絹のような光沢がでる。木理が不規則で板目面に細かい波状の縞模様（リップルマーク）が現れる。均質で割れにくく、粘りがあるので曲げ木に適する。乾燥時には狂いが出やすい。耐朽性が低い。

主な用途 加工がしやすいうえ大径材が得られるので、建築造作材、家具、器具材、漆器木地、彫刻材、楽器材、薪炭など用途は広い。ひび割れしにくく削り面がきれいなことから、皿やボウル、ねり鉢、臼には最適とされる。大径木のコブには、材に縮み杓、波状杓がよく現れ、建築装飾材、家具の化粧張り用、工芸用とされる。

デンプン質の種子は古来とち餅などの食糧となる。煎じて胃薬、目薬などにも使われる。樹木は公園樹、街路樹となる。

物理的性質

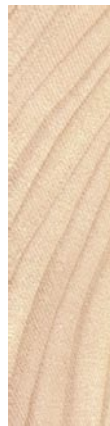
気乾比重 0.52
 平均収縮率（接線方向）0.28 %
 （放射方向）0.15 %

機械的性質

曲げヤング係数 80 tf/cm²
 曲げ強さ 750 kgf/cm²
 圧縮強さ 400 kgf/cm²
 せん断強さ 95 kgf/cm²

加工的性質

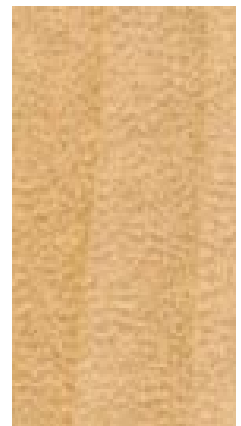
人工乾燥の難易 容易だが狂いやすい
 割裂性 —
 切削その他の加工性 容易
 表面仕上 良好
 保存性 極めて低い



木口面



板目面



板目面拡大
 (リップルマーク)

※木材の性質それぞれの意味については、連載1回目の2007年12月号で説明しています。

引用（木材の性質に関する数値等）

・日本の木材：（社）日本木材加工技術協会 1989

参考

- ・原色日本植物図鑑 木本編【I】：北村四郎・村田源 保育社 1971
- ・図説樹木学－落葉広葉樹編－：矢頭献一・岩田利治 朝倉書店 1966
- ・落葉広葉樹図譜 冬の樹木学：四手井綱英・斎藤新一郎 共立出版（株） 1978
- ・知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編：知里真志保 平凡社 1976
- ・（財）日本木材総合情報センター：http://www.jawic.or.jp
- ・樹の事典 美しい森と自然の素材：朝日新聞社 1984



住宅公園のトチノキ（旭川市）

（文責：石倉）